



大和名臣記

第十九
十市郡

2906
572

ル 4
4873
14





2906
572
4297

門
1873
卷 14

和列舊跡幽考目錄

第十九卷 市郡

磐余牽玉宮

磐余池

磐余若揚宮

磐余若揚宮

磐余瓊雲宮

磐余玉穗宮

磐余付猛田

土舞臺

池邊雙槻宮
用明天皇陵

付市磯池
掖上室山揚事

磐余野

城田
頬枕田事



阿部 崇敬寺 付 文殊大士 ○ 暹覺沙門奉

阿部 崑山

膳部 村 高屋安部神

鏡池 荻田寺

二階堂 天香久山

香具山宮 香久山社

啼沢女神 真善寺

埴安 上宮

浅右 上宮

倉林宮 標橋川

倉林離宮

下居里 崇峻天皇陵

倉橋山 付 大鏡出奉 多良の峯

談山 妙樂寺 付 十三重塔 ○ 聖靈院 ○ 大

織冠像 ○ 再真 ○ 定惠和尚 ○ 増賀上人

墳 ○ 如覺禪師基奉

紅葉洞 誥山

兩槻宮 淡海公墓

春井 紫蓋寺

音石寺 耳梨山

耳梨行宮

耳云川

村山

十市里

常盤里

竹田村

耳梨池

目無川

高山

多社

穗積

延喜式神名帳

和州舊跡函考第十九卷

十市郡

般若余幸玉宮 所志り記

又譯諸田宮 日本又池田宮 古事 ともいふ

五林抄曰大佛供の東智井里と譯田

いふに所ありんり帝王編年記曰十市郡

人皇世一代敏達天皇四子宮城はより後

ひや海部王乃家絲井五の家地と云うる

世後ひしより多し心よるひけり

奉園と經しより宮と譯諸田より所より後

て幸玉乃宮と名づけ後ひしや 日本延

寶七の迄凡一千百五の迄 池邊雙槻宮

杖葉畧記よ十市郡雙槻宮一よは磐
 余池邊雙槻宮又ハ池邊列槻宮と云
 或は高市郡と云ハハり玉林抄曰
 雙槻宮ハ十市郡古老相傳曰阿倍
 寺乃水の山於此ありて今ハ長門乃里と
 云是より東よ松本山あり
 池邊雙槻宮ハ橘豊日天皇
 用明乃御宇元
 年九月よ行々々々終ハ日本
 二冬四月磐余
 乃川上よ一々新嘗ありりり日本紀よ見
 えり又二槻宮日本也云けり之は宮り也後
 乃人あざりてにぞるべ一延寶七冬迄凡一千
 九十四年迄
 磐余池

磐余池

履中天皇二年十一月磐余池と云るを後日本
 百傳磐余乃池よ磐余池と云るを後日本

用明天皇陵

人皇世二代用明天皇ハ御宇二冬四月よ磐余
 池あり磐余乃池と云る七月よ磐余池上陵より云る
 磐余池日本云ありて後七冬と磐余池推古天皇
 元年九月よ河内山科長山陵より云る久
 草野玉林抄云磐余池よ磐余池と云る磐余池
 式曰用明天皇ハ河内山科長山陵あり
 延寶七冬迄凡一千九十三年迄

磐余若槻宮

帝王編年曰十市郡磐余乃池の里に
 磐余若槻宮ありと云る磐余池内村と云るあり

若狭宮ハ人皇十代神代皇孫三子正月譽
 田別皇子と皇太子よそそそ磐余よ紀とけ
 所一々務小是と若狭宮也といふあり日本紀延
 寶七子延元一千四百七十七子也

磐余若狭宮付市磯池 椋上室山
 人皇十八代履中天皇二子十月磐余よ都
 河津より後ひくゆる乃十一月磐余の市
 磯池よのちあり兩枝舟とてうんくあつて給
 ひしが磐余みはよ時あつぬゆらう乃死あり
 水ゆらうづきようらうりは死乃ふとまそそそ
 いはくと磐余とゆらうひくゆる長真膳連
 獨花とてうりて行しぐ椋上乃室山よりて
 椋とえくもり死ひとあつり死事よ真也

ゆせ敷感ゆして若狭宮乃若もそあつる
日本紀延寶七子延元一千三百九年也

磐余甕栗宮

帝王編年曰十市郡白香谷是也白香谷
 ハ城上郡あり後乃人あつるにそあつて
 人皇女三代清寧天皇元年磐余甕栗宮よ
 て即位ゆらうり愛紙宮也といふあり
 一とわあり日本紀延寶七子延元一千二百年也

磐余野

勅撰右所類字右所等よ十市郡
 貴推博部百首
 う死人よあつる野也乃死病つるありそあつて
 磐余玉穗宮
 人皇女七代継躰天皇ハ樟葉宮ありて即位お

ハ海して水守めよ山背乃筒城一都と
うはこれ十二多よみや山背中園よりは
強ひつが又女多九月大和園よりは
きく磐余の玉穂乃宮也そひひきる
延寶七年迄凡一千百六十回

磐余村 猛田 城田 類 枕田

磐余ハ神武天皇己未年二月そむむ
久後ひあんとして大軍あまはは
旧名代あつて磐余と号し
又天皇嚴命乃糧とさあめさ給ひ
城乃ハ十象師とさうり強ひあん
象師安よむ聚居より一が天皇と戦わ

そひつりごとく洗よわら
余是也ハ官軍立強乃を猛田と
はら取西成城田也ハ賊衆
枕也ハ西成類枕田とさうり

八十象師ハ東方按之凶黨八十人
満乃メリの二字乃ハハしあり
イハしとハしあり

土舞臺

長門里乃りよりよる
地ありハ舞臺とハしり
よあり在栗折云三輪山乃南
也ハハしハハしハハし
推古天皇女年百濟國より味摩之

利
二十七日代経ぬき色印の更よみざれど遠
家よきくひく佛堂乃下は湖つり肉卵や
梅きこども今よまふたうくくハ教書よあり
年九十一

阿倍 史木集よ大和國

万葉 者妹子よ不相入く馬井阿倍橋乃藤の生海で

は阿倍橋乃車うりハ朝林採葉よのせ

死まうり

安倍 葛山

風雅集 玉勝間あへ

玉勝間あへ鴻山乃名露藤孫えんばも長江は初と

郡中神色くくりあへんあへ鴻山を露うりハ眞
安倍乃西の田中よ安倍仲麻呂乃墳く

ちりののあまうり

膳部村

安倍山乃二三町西むの芥はうり

として冷氷あぐれうり

膳部村ハ聖徳太子乃此あやハ此縣女よく芥

とほこておろせとあめんそあ猪ひより此

やあ一猪ふり 膳登傳りのせ徳きよ色信

周くぐりえり 玉林抄よあうりそりあうり

神中抄よのちうり 麻福田丸が抄ひうり

娘の芥はほき猪ひ一あよハあうりまや法師とま

りて智光とひり人ありうりハ元身寺

極楽坊乃あよあうり

高屋安倍神 対下居神

高屋乃屋あハは郡松本山乃東乃

とありを年うたへて久しく高次明神乃
小社ハ古村のあり

天安元年八月大和國高屋安倍神あり比よ
橋下居神と從五位上よあり終不同二年高
屋安倍神よ從四位下終なり終ひの文徳
實録よあり

鏡池 安倍村東乃あり

鏡池ハ神代よ目像乃鏡とカ鏡ハ所とあり
後城下郡鏡池乃明神のみハ鏡乃あり
うたへれざるもや濫觴あり比よ古録ハ鏡
池明神のありあり

荻田寺

阿倍乃南の荻田村ハ寺ハ記あり

荻田寺又ハ本願寺と云ふ長和三年多武
拳乃檢校聖照乃建立あり 畧記

二階堂

天香久山乃地表ありて終ハとあり
二階堂ありて草創ありて後ハ山邊郡よ
うたへれざるもや濫觴ハ山邊郡よあり

天香久山

乾葉ハ類聚云い山あり而終とあり
大和國のよ一はまのびとあり終月終
目け山ありありひはとあり終あり
名披終よありあり終とあり終あり
の西一二町ありて南浦とあり終あり
終あり終あり終あり終あり終あり

南行生志げりてる造あり湯造とみ
祭礼乃時ありとては神湯造氏用事

よそて侍

天香山の伴与國風土記よ白天降乃時二月より
まきく所端と伴國よりやと侍り天香久中
より所端と伴与國伴与郡よと侍り天
山といふ是なり本紀凡は山と本朝乃靈山
とて在る陰陽家よ沙法とて山より天
照大神若宮よ由居六合常國よりて晝夜
とては皇産靈神八百万神天八瑞
河原よ儀なりて天香具山乃銅ととり白
像鏡とわたりぬ麻織り人青和幣とて穀本
と人自和幣とて終ふ是本朝乃初とて

一夜よ蓋茂けし事乃儀式よりて今乃世も
豊洲神系也中ハ是とて侍りてとこあり

詞林採葉

詞林採葉

白幣中羊神の枝より侍りてとて今乃世も
くくやと天香をわけたりとて人の子神後鳥羽院

天よ由もよとて神の由より侍りてとて今乃世も
首者之輩不和乎我々も久しかりぬ天香具山

久安百首

好忠

香具山乃跡の末も侍りてとて今乃世も
山乃松風もや春も波もさる池乃侍りハ真觀

草根

目氣とて霞の衣とて山ありまも侍りてとて今乃世も

香具山宮

香具山乃宮ハ藤原乃此宇天皇乃繼宮也

凡そつり甚故の万葉集や一の長歌
我大表の万代也昔なりめしてははるる好香久
山乃賞伐りもまんと昔なり

香久山社

大和國十市郡阿波乃く山よまのたの御直命
神あり 新日本紀

啼澤女神

啼澤女神の香山乃畝尾立乃樹下よまのた 舊事本紀
澤女の水神乃通稱とくや

哭澤乃神社よ三輪まへののまどとこい乃まどら
大表のまど日あつまぬ

真善寺 香久山乃麓

天香久山真善寺乃文殊院の本名文殊大士

元来城あつり帝王編年曰香久山三学院とん
えつり

寺領世石豊臣幕下を繕ひしより已集

埴安

仙免抄藤塩をよ大和國

神武天皇乃由宇天香久山の埴土とより八十平
念とまぬくつりおつり神とより

あめがまの鏡のめを繕ふそ乃おと取と埴安と

日本紀

上宮 櫻井乃町の南六七町

上宮ハ聖徳太子乃由父あつりまそつりまの用
天皇乃太子とつりいれくまゆしつり宮の
南乃上宮よまへを繕ひしより上宮戸豊

聰耳太子と云々日本又上宮太子と云々

上宮寺親の後鳥羽院乃震筆也上宮村よ今よあり

後古 上宮の東六七町

後古阿階乃文珠の降道乃比あり

陵

は遠よ陵をんしもしも後古村よ二

基揚井より十町をり押合やひあや二基

上宮村の西乃よ一陵ありあり内ハ

ありは内をゆり比標橋村乃北はよ一基あり

倉梯宮

註要云多武岑の東乃は倉梯乃里のう

りよひの里居の記とて社ありと云ひ

ハ上宮村より十町をり東よ倉梯村の

倉橋宮又ハ宋道ノ宮と云々古史人皇世二

代用明天皇二年八月倉橋中て宮はより

後小紀日本 延寶七年迄凡一千九十二年迄

標橋川

ら程より川水上も多武岑と音石山より

あく乾よあぐれ行奇枕曰倉橋ハ丹波

五穀河必よあり先達大和必と云仙光

折物撰長所等大和國城上郡と云尤

川と云城上郡よあぐれ行

六帖 寢よのよあぐれし倉梯乃等の白雲と云ひ

倉梯離宮

我
慶雲二年三月倉持齋宮よき由こころより續
日本紀よらんごとり

倉持齋宮

秋宮の天武天皇七多乃春天神地祇より
鑑ひあんとして天卜とくを秋禱してつり川の
川上よ秋宮とて鑑ひく四月は行幸あり
あんとしてありつらとて色十市皇女宮中よりて苑
鑑ひくより行幸もあつて神祇乃まつりえ
やこよ紀十市皇女の赤穂よりまつりあり
紀日本

下居里

標橋村より六町鑑く多武峯乃
ひがし

人皇世三代崇峻天皇即位内して倉持
の宮に侍り鑑日本は水ハくく山乃下
辰乃東也つらありあやひくう庭此くせは
考よあつてひくく觀現ありとて七卷

崇峻天皇陵

多武峯の東にけ陵あり崇峻天皇
の社西よりひくくあり

人皇世三代崇峻天皇ハ沖宇五多十一月
あり鑑ひく倉持是乃陵よりく日本
大和國十市の郡よあり延喜延寶七年
一千八十八年

倉橋山

倉橋 倉梯 倉椅 標

口 卷十七 三

橋三代 實録 せし色りり龍岳巔より西へ

市郡東の十市郡二郡より西へ

方集 あり

倉橋の山 記 あり

貞觀十一年七月八日山の前へ

二丈深さ一丈二尺

尺七寸禁裏よなる 三代 實録

多良峯

三方小跡あり東へ倉橋六十余町西へ

細川廿七町北山四十九町北山乃海

今ハ絶り 記

史多良峯ハ釈書ハ丑臺山と云く

ハ伊勢乃山西ハ金剛山南ハ金峯山北ハ

大神山中央ハ多良峯也 荷西 記

禊山妙樂寺 寺領三千石二井

山号或ハ禊山又ハ禊峯又ハ多良

峯又ハ龍岳也

作禊山ハ中大兄皇子 天皇

心代あり 臣 入麻と諱して

乃峯藤花の下りて

ひ後ハ皇子と云ふ

よのりり 海 姓とあり

と宮ふその禊

ハ峯と云ふ

ハ峯と云ふ

苑ありて塔十三重乃塔とありて久支殊
 菩薩現管化ありてまへまへ色より
 多より延寶七年迄凡一千二年迄
 聖靈院いじり異光射く大本乃造よありて

▲聖靈院

色より定恵和尚方三丈乃御殿と造り
 荷西之後延喜十四年真界大法師長者真信
 記云より之入なり一六宮造あり要又大織冠乃
 像いあまの國高男丸の御遠あり荷西又換授于
 満法師此よりなりとあり衣老相傳曰高男丸
 かの遠乃像と千法法師乃法り像の中より
 網よりて安置とあり後た衣の定恵和尚
 淡海云より神階の正一徳勲一寺又延長四
 年小嶺山指現此勅号と終りあり

▲妙樂寺

聖靈院と号し寂冥なりて心法
 正西乃構門軒とありて室を造りて
 行三昧堂ハ世々より法なりて定恵和尚乃遺
 像堂如覺禪師ハ啟白し七十余所皆大時神
 堂大衲衣經輔ハ大徳ハ友原長房乃法施の
 温室寺よりより代々と行ねまへまへ今より
 軒とありてなり

▲定恵和尚

乃の法
 如法堂村上天皇乃勅願
 政右大臣俣平云の曼陀羅堂四融院乃勅願

金堂実性僧都乃

の普門堂座主真昂乃食堂等ハ多ク好リ好シ
ハヨク其の衣のミヅケリ我のミヅケル徳伽藍は
クハク畏記ヨクミヅケリ

▲大織冠乃其像ハ天下ノ凶事ありキハ破裂

後小光永承元年正月廿四日在の沖面四寸余被

裂シ後ハミヅケリ已未文治三年迄十三ヶ度

あり其後ハミヅケリ破裂乃ミヅケリミヅケリ

沖ねミヅケリ勅使臺山ありて宣命頭ハミヅケリ

ハミヅケリミヅケリ金ハミヅケリミヅケリ

▲再真ハ人皇七十二代白河院永保元年西

三月六日ミヅケリ山音石乃氏宅ヨリ火も

えありて堂舎佛閣一時乃ミヅケリミヅケリ

是真福寺の僧乃意恨とゆクミヅケリミヅケリ

おのまよりとあり 新書寺 其後再真河利

▲人王七十四代鳥羽院天仁元戊子年九月十

一日真福寺乃其徒蜂起して堂塔をミヅケリ

徳院徳坊等山郷沙ミヅケリミヅケリ

再真あり

▲人王八十代高倉院兼安三癸巳年六月廿五

日又真福寺蜂起して沙をミヅケリ灰盡ミヅケリ

同沖宇治兼元年十二月二日芥原ありて

十三重乃塔破ミヅケリミヅケリ至ハ大和國廣瀬乃

住人衣馬允康教あり 畧 其後寛文七年此

遺賞あり

▲南基定惠和尙乃墳ハ當寺ヨリあり碑曰入

唐末法沙門定惠和銅七及六月二十丑春

バ我々もあつりし時二奉城人よひあら
 きくやめお記着一念のうりうらんよん生死の
 執せありしやせんとうくしものよんあつてあつ
 つくまこり長保あき六月八日よ

みりまこし十あまの波海月の骨あひな
 也蘇して九日よ金剛印とじよび安符とて
 決ととる年八十七三年成強く廟成ひく

よ全妙や始もむとてに變せゆるやんや
 從生傳殺心集増賀行業記とてまんり
 如覺釋師乃墳の儀よ飯盛塚とてりは
 師乃父ハ九條右大臣藤原師輔之母ハ延喜
 帝の皇女あ秋宮雅子同親王ありしうハ
 右ハありおさ君とて関るしおひしは強ひく

ハ高亮乃水約せらんしひりしと心ある人よ
 てこれよあひなりしりきる時よ車よりおり
 て如とありがみせうくまくとあてあてあり
 可てあんとおりきるやん又厚のうゆをさう
 まみおぼりてめぐう記と身強ひく
 く半強うかん世の中はらやゆりもある月家
 せよみ強ひくう乃曉よお強あく法師よあり
 強ひよりのみりせよしのみきうあられがうせ強
 強よりの雲ハ重く真山乃横川の折ハまよらん
 あり

九重のうりおしきい強りて雲乃八重乃山を
 ちのハ横川よと強ひし後よ多武
 拳入りまこおりし由記榮花物強大強強

復あて石上山の石紙は之流よまごごひく
 紙紙ひききく富の東乃山よ石紙くめりて垣
 せりきり時人ひせそりきく心乃集よ氏
 史乃らるしみせせり集せりしき切史
 三万余恒紙はらるし切史七万余富の
 林燭山椒埋もきり又人そきりて石上丘と
 流るるものせりく破きそんとみひけり日本
 死

淡海公墓

は墓ごごひしふ志きむ帝王編年よ添
 上郡奈良よありと云別そ墓せしふ
 も乃あり紙も延喜式に家ひやよ多
 年券よありと傳きばらるるがふよあり
 むは西とくさひくごごひ終あべり

太政大臣正一位淡海公藤原朝臣乃墓天祖
 園十市郡多氏券あり延喜元正天皇
 養老四年八月一日よ薨りたり石紙文
 忠云也終ひりたり延喜七年よ九百六
 十年死

春井

多市券乃西の地もこもありき市郡の
 うらりよて傳べられども志がらるる多氏券
 よよりて爰よあらむせ
 聖徳太子ゆ産湯もく東井千歳井赤
 海井のその乃井とやらさるる二川の井い
 りらるる春井のそのこきり人書井乃聖水
 とよこれる撰集新通要よらるるらんり

は家蓋寺

多武峯よりみ町にあり乾念禰屋
 山ありあり市郡ありんげきどき多
 武峯乃山内ありきバ家ありありん
 は家蓋寺の増賀上人の廟ありんげき多武
 峯の講堂乃下よおさありんげき多武
 て家より所へ入り上人の傳の嶽山妙
 武寺よりありんげき多武
 峯ありんげき多武
 峯ありんげき多武

音石寺

多武峯乃東北よりあり多武峯乃
 末あり

音石寺又善法寺也山あり
 乃地より勝室元文山門心結の草創後
 天長年中管造あり願室安部中納言入
 道圓香

身梨山

依は天神山といふ八本村乃東より
 仙覺抄十市郡又身高山といふ善管山
 といふ可葉集は藤原乃水井乃初よ
 乃より身無川麓よりあり身梨池り
 といふのこり

可葉
 山あり雄男志等身梨とありありん
 神代よりありんげき多武
 道よりありんげき多武

懐中抄
あつた人の耳梨山のあまふ海くてもあつたさうそり
ぬり

耳梨行宮

推古九年の月天皇耳梨此行宮より行幸あり
後小紀日本

耳梨池

ひり母ありたり愛見せらんひりおとこ
三人して恋あつたふ女せん人あつた
楓葉ふやう我身一河清らん霧下り色うらし
三人乃男の心秋平ぐさ死のあどし死よけ
池あつて身とぞあげむる三人のあそこあげ
死よ法とてよあれた万葉集
耳梨池うら先し死のあどし死よけ
是の山うら先し死のあどし死よけ

同
是の山うら先し死のあどし死よけ

耳無川

耳梨山の東乃藤とあがれてぬよ行

六帖
目が川みく川のたさくもあつた人さうさう

目無川

藤垣東よ大秋國と云耳梨川秋合
さるよ向くさく愛よあつた目無川
ぬえらぬ

村山

万葉
山常よ村山あきごとりよりあつた天香具山の
目無國は秋とさくあつた立霧海系は
加葛目立多都恰阿國曾蜻島八間跡能國
者

山

萬葉集 藤原集より大和國類字名所より十市郡
言由耳梨山とありの時より凡小集之伴奈茂園
波良

澄月舟枕曰山秋正歌之山其讀有子細
死又八雲出抄又常陸國志之死と云今按
萬葉集廿三日丹比真人登籠波岳作歌
鷄之鳴東國尔云山依波尔唯有云今按
是唯惣言山也北別名者一所名死又
作別名所と死と云

十市里 畝火山の乾

竹取翁物語より大和山ととり乃山智りよある
山寺より實願廬乃ありら乃ひひとありよ

山名記に云々代也りてと云きり

清浦集

わぶ米のととら火里大和川等々津ありと云
三茅野乃里ととら乃山橋あり雲々云々
は秋沈月秋枕唯を記と云あり予
市郡誌ありと云ありと云ありと云
云々

多社

八本村一里をりり如九品寺村乃あり所
長よあり

多坐跡志理都比古神社二座延喜
式

藤原集より大和國と云山城國より園衣あ
耳山乃ひひと云常盤村あり

草屋 一人延約せり海乃松のげぢぢと人々望す

穂積

依り清浄せしけり十市郡押のんづき

よあり

水鏡 穂積にまよむるまよひまよひ流けり

竹田村 乃村の西

大傳坂上郡女竹田庄作歌二首

京師所念 同 隠乃娘瀬山いりたるぬ時多のぬゆりおとす

十市郡神名帳十九座 延喜式

多坐弥志理都比古神社二座

目原坐す郡尾神社二座

畝尾倭土安神社

作田神社

子部神社二座

天香山坐楯直余神社

姫皇子余神社

屋就神余神社

小社神余神社

下居神社

和

卷十九

七

和州舊跡幽考第十九卷沈

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 和州, 舊跡, 幽考, 第十九卷, and 沈.

